

『競輪における新型コロナウイルス感染症感染拡大予防ガイドライン（令和4年12月5日改訂）』
『新型コロナウイルス感染症対策要綱』（2022年12月8日改訂）』 に基づく

競輪開催における 新型コロナウイルス感染拡大防止対策事例集

【競輪競技実施部門】



【競輪競技実施統括部】

第8版：2022年12月

目 次

◆はじめに 1

◆対策要綱「10.選手管理について」（前検日～最終日）

- ・ 1.マスク着用の徹底 2
- ・ 5.競輪場到着時 3
- ・ 6.到着後 3
- ・ 7.参加状況申告時 4
- ・ 8.参加受付時（帰郷時も同様） 5
- ・ 9.選手控室 6
- ・ 10.検車確定検査時 7
- ・ 11.身体検査時 9
- ・ 12.指定練習時 10
- ・ 13.自由練習時（ローラー練習） 11
- ・ 14.開催式 12
- ・ 15.輸送バス 13
- ・ 16.入浴 14
- ・ 17.食事 15
- ・ 18.選手宿舎（居室） 17
- ・ 19.選手宿舎 19
- ・ 20.マッサージ 20
- ・ 21.就寝時 21
- ・ 22.起床時 22
- ・ 23.発熱者等発生時 23
- ・ 24.レース前 24
- ・ 25.レース後 25

- ・ 26.トイレ 27
- ・ 27.直前控室 28
- ・ 28.喫煙所 29
- ・ 29.随時 30
- ・ 30.一時隔離場所 34
- ・ 31.感染が確認された選手への対応 35
- ・ 32.開催中の体調チェック 35
- ・ 33.感染者への聞き取り内容の把握 35
- ・ その他 36
- ・ 新型コロナウイルス感染予防ガイドブック
（競輪選手向け）
. 38

◆対策要綱「11.従事者等について」

. 39

◆対策要綱「12.選手取材にあたっての留意事項について」 （報道関係者あて）

. 42

◆対策要綱「13.取引先等の対応について」

. 47

- ◆競輪界では、政府の『新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針』（令和2年3月28日：令和4年11月25日変更）（新型コロナウイルス感染症対策本部決定）に基づき策定した『競輪・オートレースにおける新型コロナウイルス感染症感染拡大予防ガイドライン』（令和2年5月29日・令和4年12月5日改訂）を踏まえ、競輪関係団体で組織する新型コロナウイルス感染症対策本部において策定した『新型コロナウイルス感染症対策要綱』（2020年6月5日・2022年12月8日改訂）（以下「対策要綱」という）に基づき、安心して安全な開催を確保するために様々な対策を実施しています。
- ◆本資料（略称：競輪コロナウイルス対策事例）は上記『対策要綱』において整理された対策方針に基づき、本財団競技実施部門が開催施行者と連携・協力しながら競輪開催期間中（前検日～最終日）に各競輪場で実施している代表的な事例を取り纏めたものです。

（「対策要綱等の改訂」「対応策の変更」があった場合は該当箇所を更新していきます）

公益財団法人JKA 競輪競技実施統括部

対策要綱 10. 選手管理について

(1) マスク着用の徹底について

- ・選手は、開催中、マスク着用を徹底する。ただし、以下の場合に限り、マスクを着用しないことができるものとする。なお、マスクを着用しない場合にあっては、会話を禁止する。
- ・十分なマスク着用の効果を得るために、不織布マスクの着用を推奨し、また、隙間ができないようにすることを励行するなど、感染リスクに応じた、適切なマスクの着用を行う。

食 事 時：着席し食事を始めるときから食事を終えたときまで。

入 浴 時：脱衣所にて着衣を脱ぐときから入浴を終え、着衣を付けるときまで。

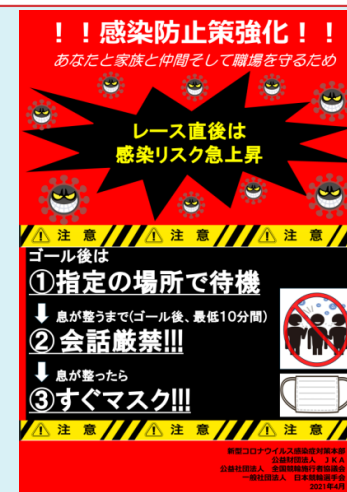
指定練習時：バンク内における指定練習時においては、バンク入場時からバンク退場時まで。

選手紹介時：入場準備時より選手紹介を終えて、所定の車立てに自転車を格納するまで。

競 走 時：入場準備時より競走終了後息が整うまで。ただし、マスクを着用しない状態でブレスコントロールエリア（※5）から出ることを禁止する。

就 寝 時：就寝ブースに入りカーテンを閉めている間。

（※5）ブレスコントロールエリアとは、オープンスペースを基本とした競輪場ごとで指定された場所をいう。

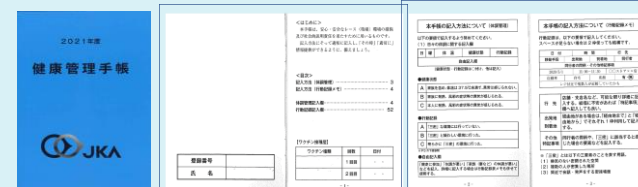
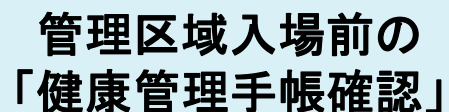
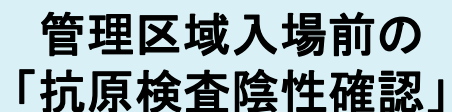
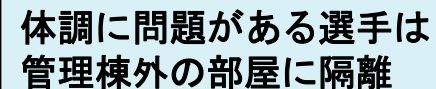


マスク着用の義務付け・会話厳禁等周知
(入口・管理エリア内各所・ブレスコントロールエリアにポスター掲示)

(公財) JKA 初 版：2020年 8月

第8版：2022年12月

- ・選手管理委員は、選手の検温及び手帳に記入した過去10日間の体温、行動記録等の確認を行い、37.5℃以上の発熱又は平熱と比べて1℃以上体温が高い状態であった場合、かぜ等の症状が見られる場合、過去10日間の体調に問題がある（同居する家族の体調に問題がある場合も含む）場合には、当該選手は、選手管理棟内に入れること無く隔離（場内救護室等）し、派遣医師の問診を受けさせる。また、全選手は、新型コロナウイルス感染拡大予防の健康観察票（様式6）に記入する。
- ・選手は、参加中、特に体調管理に留意し、わずかな変化でも選手管理委員へ申告し、派遣医師等の診察等を受け、指示に従う。
- ・「（1）マスク着用の徹底について」を遵守する。

[illegible]

(7) 参加状況申告時

- ・できる限り2mを目安に（最低1m）間隔を確保する。
- ・選手管理委員は、定期的な抗原検査実施後から競輪場到着までの選手の感染リスクの高い行動を申告させ把握する。



参加状況申告（体調等）入力端末の間隔をあけ、
マーキングを実施



参加状況申告（体調等）入力端末位置が近い場合
ビニールシート設置

(8) 参加受付時（帰郷時も同様）

- ・床へのマーキング（立ち位置表記）を実施する。
（概ね10人分（できる限り2mを目安（最低1m以上））



マーキングの実施



距離確保・飛沫防止シート設置



ソーシャル
ディスタンス



掲示物

(9) 選手控室

- ・選手控室に選手が滞留しないよう宿舎居室を積極的に活用する。
 - ・選手控室は、原則として、競走準備以外には使用しない。
 - ・競走終了後の選手が選手控室に極力立ち入らないよう、会議室や休止中の場内施設等、別の待機場所の提供を検討する。
 - ・選手控室を利用する場合には、できる限り2mを目安に（最低1m）選手同士の距離を確保するよう努め、一定数以上の選手が同時に選手控室に入らないよう、入場制限（※3）、利用時間をずらすことや選手出身地域別の区割りではなくレース出走順への使用運用変更などの工夫を行う。特に、スペースの確保や、常時換気（※4）を行うなど、3つの密を防ぐ（できる限り「ゼロ密」を目指す）ことを徹底する。
- （※3）選手控室等の面積に対し、選手一人の専有面積を4㎡とする等、できる限り2mを目安に（最低1m）距離を確保できる面積で割った数を上限人数とする。
- （※4）適切な空調設備を活用した常時換気又はこまめな換気（1時間に2回以上、かつ、1回に5分間以上）の徹底。乾燥により湿度が下がる場合は、湿度が40%以上になるよう適切な加湿を行う。寒冷な場面における換気を適切に行う上では、特に密が発生しやすい場所において、CO2モニター等で換気を確認（1000ppm以下）すること、温度を維持しながら適度な常時換気を行うこと及び加湿器等で適度な湿度を維持する工夫をすることが推奨される。



例：通常の控室（170畳）の外に増設控室（140畳）を確保



掲示物



CO²モニターによる換気の確認

(10) 検車確定検査時

- ・床へのマーキング（立ち位置表記）を実施する。
（概ね10人分（できる限り2mを目安（最低1m以上））
- ・可能な限り検査時間の拡大を図る。



マーキングの実施



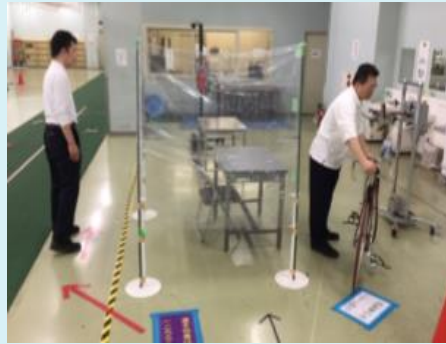
常時換気

(10) 検車確定検査時

＜前検日：選手が確定検査に立会う場合の検査方法（例）※写真はJKA執務員によるリハーサル風景＞



①選手はJKA執務員に自転車を渡す
(選手はビニールシート左側に進む)



②確定検査
(ビニールシート右側で検査実施)



③検査終了
(自転車を選手に戻す)

＜前検日：選手が確定検査に立会わない場合の検査方法（例）＞



①車名・ギヤ倍数確認



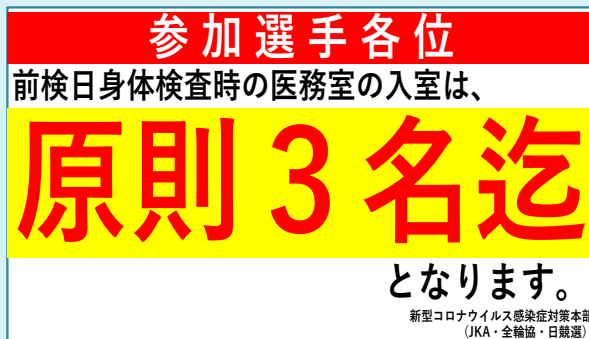
②選手は自転車組み立て後
スタンドに格納



③確定検査
(JKA執務員のみで検査を実施)

(11) 身体検査時

- ・ 医務室への選手の入室は原則3名までとする。可能な限り検査時間を拡大する。
- ・ 落車発生時の同県選手の入室は原則1名とする。
- ・ できる限り2mを目安（最低1m以上）に選手同士の距離を確保するよう努める。
- ・ 到着時に記入した健康観察票に基づき派遣医師による問診を行い、参加の可否判断の結果、参加不可となった選手は、派遣医師が指示する方法で帰郷する。



医務室入口 掲示物



医務室前待機時 距離確保



医務室内 入室数制限・ビニールシートの設置
(血圧測定)



(問 診)

(12) 指定練習時

- ・ 指定練習についてはできるだけ少人数単位で行うよう区分する。
- ・ 練習終了後息が整うまで一定の時間（最低10分）は直前控室、選手控室等仕切られたスペースに立ち入ることを禁止し、他の選手と2m以上の距離を確保する。



指定練習は少人数単位で実施

(13) 自由練習時（ローラー練習）

- ・練習台設置場所を1台おきとする等、できる限り2mを目安に（最低1m）間隔を空けることとする。（投票所施設の有効利用も考慮）
- ・練習台の間に飛沫防止のためにアクリル板・透明ビニールシートなどのパーティションを設置するとともに、使用後は各自で手すり等の消毒を徹底する。また十分な換気（※4）を行う。
- ・頭の位置が互い違いになるように練習台を配置するなどの工夫を行う。
- ・ローラー練習終了後息が整うまで一定の時間（最低10分）は直前控室、選手控室等仕切られたスペースに立ち入ることを禁止し、他の選手と2m以上の距離を確保する。

（※4）適切な空調設備を活用した常時換気又はこまめな換気（1時間に2回以上、かつ、1回に5分間以上）の徹底。乾燥により湿度が下がる場合は、湿度が40%以上になるよう適切な加湿を行う。寒冷な場面における換気を適切に行う上では、特に密が発生しやすい場所において、CO2モニター等で換気を確認（1000ppm以下）すること、温度を維持しながら適度な常時換気を行うこと及び加湿器等で適度な湿度を維持する工夫をすることが推奨される。



ローラー台は1台おき（頭の位置は互い違い）
各ローラー台に手すり消毒用消毒液設置
飛沫防止シート設置・窓解放で換気徹底
ローラー使用時もマスク着用



掲示物



CO²モニターによる
換気の確認

(14) 開催式

- ・原則として放送により実施する。
- ・選手は宿舎居室又は選手管理エリアにて待機する。



管理室の放送設備を使用して参加選手に諸事項伝達

(15) 輸送バス

- ・運転席と座席の間にビニールシート等で仕切りを設置する。
- ・可能な限り増便するとともに、できる限り2mを目安に（最低1m）座席間隔を確保できるよう、乗車区分を明確にし、バス内必要か所のアルコール消毒の実施や常時換気（※4）を行う等、3つの密を防ぐ（できる限り「ゼロ密」を目指す）ことを徹底する。

（※4）適切な空調設備を活用した常時換気又はこまめな換気（1時間に2回以上、かつ、1回に5分間以上）の徹底。乾燥により湿度が下がる場合は、湿度が40%以上になるよう適切な加湿を行う。寒冷な場面における換気を適切に行う上では、特に密が発生しやすい場所において、CO2モニター等で換気を確認（1000ppm以下）すること、温度を維持しながら適度な常時換気を行うこと及び加湿器等で適度な湿度を維持する工夫をすることが推奨される。



運転席と座席の間に
ビニールシート設置



選手は間隔を確保して乗車
※写真はイメージ



常時換気

(16) 入浴について

- ・サウナの使用は禁止する。人の距離の確保（できる限り2m（最低1m））のための入場制限（※3）を行うとともに、会話は禁止とする。また、タオルやブラシ等は選手個人が持参するものとする。
- ・常時、何人が入浴中であるか分かるような入場制限の体制を構築する。
- ・入場制限の人数に応じ、適宜、脱衣かごやカランを間引くなど、人の距離を確保する。
- ・更衣室、ドライヤー等の備品の消毒、換気強化（※4）等を行う。

（※3）選手控室等の面積に対し、選手一人の専有面積を4㎡とする等、できる限り2mを目安に（最低1m）距離を確保できる面積で割った数を上限人数とする。

（※4）適切な空調設備を活用した常時換気又はこまめな換気（1時間に2回以上、かつ、1回に5分間以上）の徹底。乾燥により湿度が下がる場合は、湿度が40%以上になるよう適切な加湿を行う。寒冷な場面における換気を適切に行う上では、特に密が発生しやすい場所において、CO2モニター等で換気を確認（1000ppm以下）すること、温度を維持しながら適度な常時換気を行うこと及び加湿器等で適度な湿度を維持する工夫をすることが推奨される。



浴室入口 掲示物
(人数制限)



入浴人数制限（入口で入浴中の人数が分かる工夫）
脱衣所の距離確保・脱衣籠等備品の消毒



掲示物

(17) 食事について

- ・食事中は黙食を徹底し、会話は禁止とする。
- ・食堂の出入口・共有物付近には消毒液を設置する。選手は、食堂使用前には必ず手洗い・手指の消毒を行う。
- ・選手毎（地区毎等）に夕食時間を指定する。（15 分以内）
- ・椅子へのマーキング（×印）によりできる限り 2 m（最低 1m）選手同士の距離を確保し、対面で座らないなどの工夫を行い、席間にアクリル板や透明ビニールカーテン等のパーティションを設置する。
- ・可能な限りセットメニューとする。ビュッフェ方式で食事を提供する場合には、手指の消毒又は手袋の着用を徹底する。
- ・長時間の滞在を招きかねないメニュー等は提供しない。
- ・サーキュレーターや小型扇風機などを活用し、空気の流れを確保する。
- ・飲食用に感染防止策を行ったエリア以外での飲食を制限する。
- ・当分の間飲酒は禁止とする。



新型コロナウイルス感染症対策の為、

飲酒不可

となります。

新型コロナウイルス感染症対策本部

(JKA・全輪協・日競選)



食堂内外 掲示物

(17) 食事について



椅子へのマーキング（対面回避）・飛沫防止シート設置



掲示物



ビュッフェ方式の場合
①料理を小皿で提供
(食品をラップでカバー)



ビュッフェ方式の場合
②スタッフによる取り分け
(ビニールシート設置)



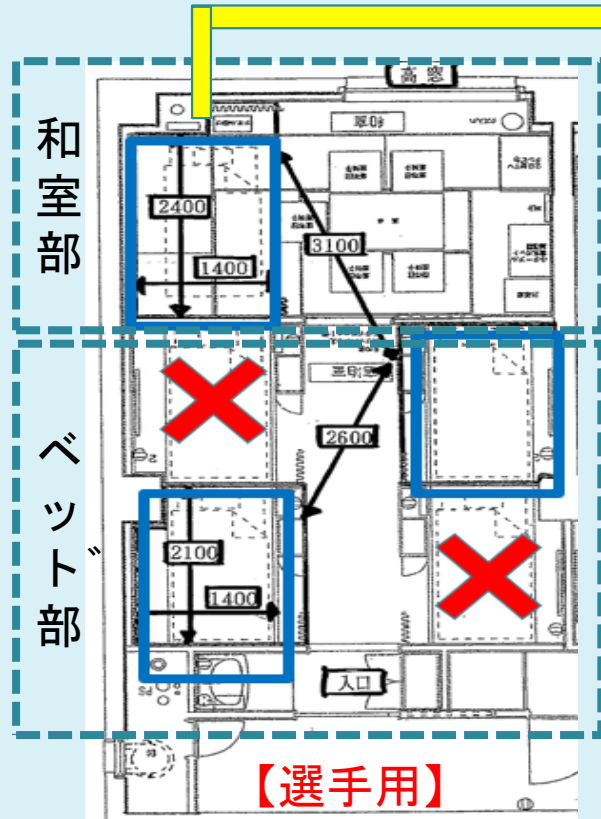
ビュッフェ方式の場合
③使い捨て手袋の用意(食品をラップでカバー)



(18) 選手宿舎（居室）

- ・可能な限り個室とする。
- ・選手の居室の指定にあたっては、当該選手が直前に出場した競輪場における感染状況、当該選手の居住地における感染状況及び緊急事態宣言等の発令状況等を十分に考慮するものとする。
- ・個室とすることが難しい場合には、専門家の指導に従い、可能な限り同部屋選手数を減らし、かつ、同部屋の選手ができる限り2mを目安に（最低1m）距離を保てるよう、部屋内にパーティション等を設置し、個室に相当する部屋の空間の確保と選手配置について最大限の見直しを行う。また、居室であってもマスクの着用（就寝ブースに入りカーテンをしている時は除く）、共用スペースにおける複数での飲食等を行わないことを徹底し、飛沫対策を講じる。

※可能であれば分宿対応も検討する。



和室部に寝床を追加(カーテン設置)

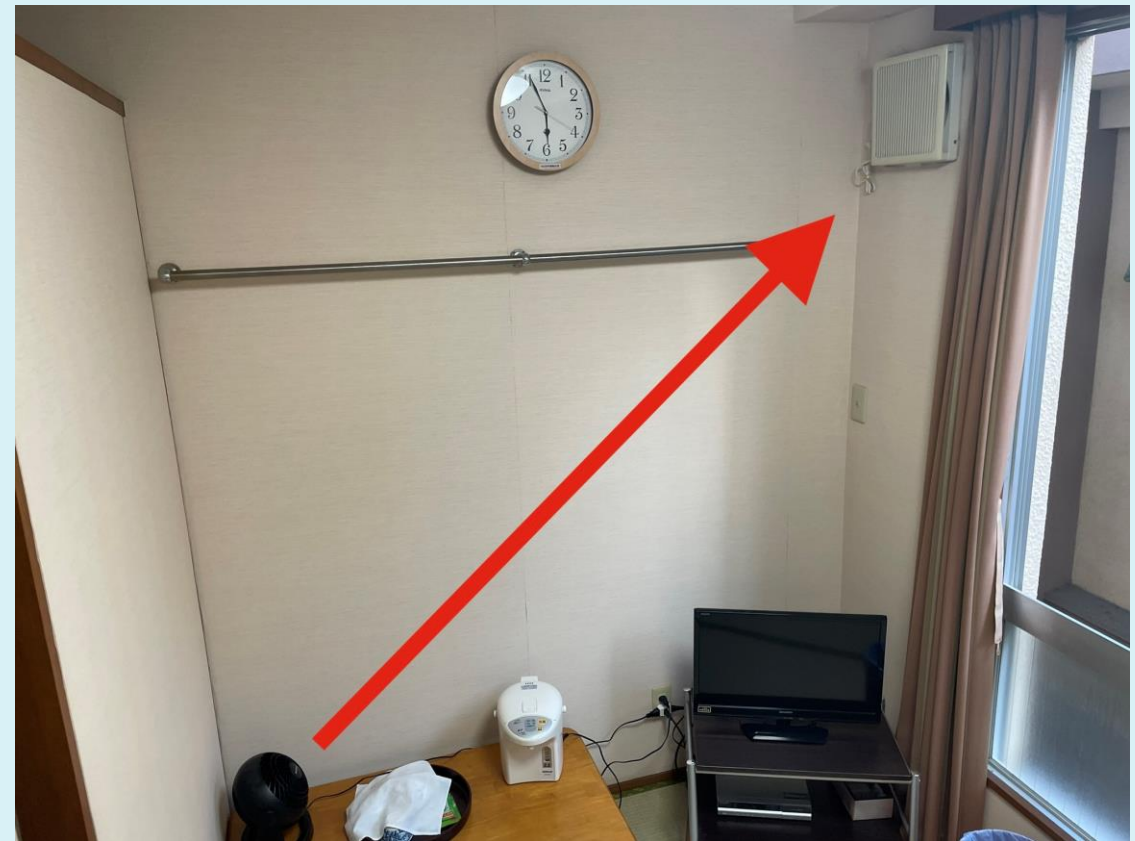


(18) 選手宿舎（居室）

- ・サーキュレーターや小型扇風機などを活用し、居室の空気の流れを確保する。
- ・選手の就寝時を除き、選手が部屋にいる場合において、窓が開く場合には1時間に2回以上（かつ1回5分以上）、窓を開け換気する、宿舎全体や部屋の換気に努める。なお、機械換気の場合にも、必要な換気量が不足する際は、窓開放との併用が有効である。



サーキュレーターを活用し、空気の流れ確保



(19) 選手宿舎

- ・選手が多数集まる場所（喫茶コーナー、談話スペース等）の利用を制限する。制限を解除する場合は、ガイドライン5.(4).⑥を遵守する。
【ガイドライン5.(4).⑥】
- ・入退室の前後の消毒・手洗いを徹底する。
- ・屋外の喫煙所は、灰皿の間隔を空けるなど、出来る限り身体的距離を確保するよう努め、人が密集しないスペース作り等の工夫を行う。
- ・休憩・休息をとる場合には、マスクの着用を前提に、人と人が触れ合わない程度の距離を確保するよう努め、一定数以上が同時に休憩スペースに入らないよう、入場制限、休憩スペースの追設及び休憩時間をずらすなどの工夫を行う。
- ・適切な空調設備を活用した常時換気又はこまめな換気（1時間に2階以上、かつ、1回に5分間以上）を徹底する。乾燥により湿度が下がる場合は、湿度が40%以上になるよう適切な加湿を行う。また、換気に加えて、CO2測定装置の設置と常時モニター（1000ppm以下）の活用を検討する。（※機械換気の場合。窓開け換気の場合は目安。）なお、CO2測定装置を設置する場合は、室内の複数箇所での測定し、特に換気が不十分となりやすい場所に設置する。HEPAフィルター式空気清浄機やサーキュレーターの補助的活用も可とする。



喫茶コーナーの利用制限



談話スペースの利用制限

(20) マッサージ

- ・当分の間取り止めとする。

新型コロナウイルス感染症対策の為、
**マッサージは
取りやめ**
となります。

新型コロナウイルス感染症対策本部
(JKA・全輪協・日競選)

掲示物
マッサージ取り止め

(21) 就寝時

- ・選手は就寝前における検温の実施を徹底し、わずかな変化でも選手管理委員へ申告し、指示に従う。

検温実施

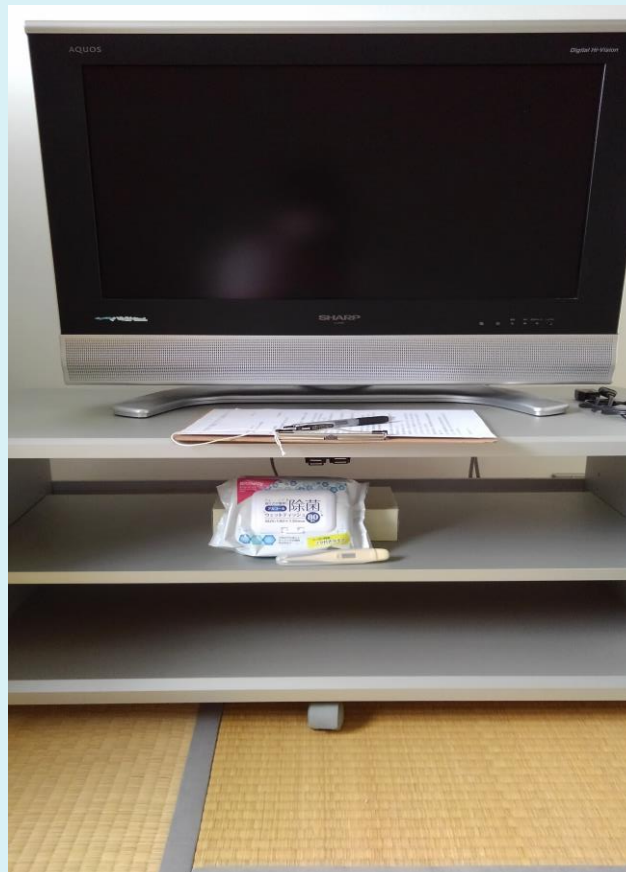
就寝前・起床時の検温を

必ず行ってください



新型コロナウイルス感染症対策本部
(JKA・全輪協・日競選)

掲示物
検温実施の徹底



体温計・除菌シート・記入表
選手宿舎各居室に配備

検温 記入表

目標値、起床時の検温を記入し、この検温に記入して下さい。
起床時の検温を記入して下さい。
検温時に検温結果を記入して下さい。

氏名			
選手A	就寝時	℃	℃
	起床時	℃	℃
選手B	就寝時	℃	℃
	起床時	℃	℃
選手C	就寝時	℃	℃
	起床時	℃	℃
選手D	就寝時	℃	℃
	起床時	℃	℃

(22) 起床時

- ・選手は起床時における検温の実施を徹底し、わずかな変化でも選手管理委員へ申告し、指示に従う。

検温実施

就寝前・起床時の検温を

必ず行ってください



新型コロナウイルス感染症対策本部
(JKA・全輪協・日競選)

掲示物
検温実施の徹底



体温計・除菌シート・記入表
選手宿舎各居室に配備

検温 記入表

目標値、起床時の検温を記入し、この検温に記入して下さい。
起床時の検温を記入して下さい。
検温時に検温結果の検温を記入して下さい。

氏名			
選手A	就寝時	℃	℃
	起床時	℃	℃
選手B	就寝時	℃	℃
	起床時	℃	℃
選手C	就寝時	℃	℃
	起床時	℃	℃
選手D	就寝時	℃	℃
	起床時	℃	℃

(23) 発熱者等発生時

- ・開催中に発熱（37.5℃以上又は平熱より1℃以上体温が高い場合）、咳、下痢、倦怠感その他体調の異常を訴える、若しくは服薬（風邪薬、頭痛薬等）の処方を希望する選手がいた場合は、当該選手に対し「3. (1)②」に定める抗原検査を実施する。選手管理委員はその情報を適切に記録する。（様式7）

病院輸送の際に参加選手と接触しない経路で移動可能な部屋を確保



様式7

2022年度 第 回										営		競輪		月 日～ 月 日		開催執務委員長 競技委員長					

(24) レース前

- ・直前控室の換気を徹底する。(ドア開放等) (※4)
- ・選手間の距離を確保する(できる限り2m(最低1m))

(※4) 適切な空調設備を活用した常時換気又はこまめな換気(1時間に2回以上、かつ、1回に5分間以上)の徹底。乾燥により湿度が下がる場合は、湿度が40%以上になるよう適切な加湿を行う。寒冷な場面における換気を適切に行う上では、特に密が発生しやすい場所において、CO2モニター等で換気を確認(1000ppm以下)すること、温度を維持しながら適度な常時換気を行うこと及び加湿器等で適度な湿度を維持する工夫をすることが推奨される。



控室の常時換気



掲示物

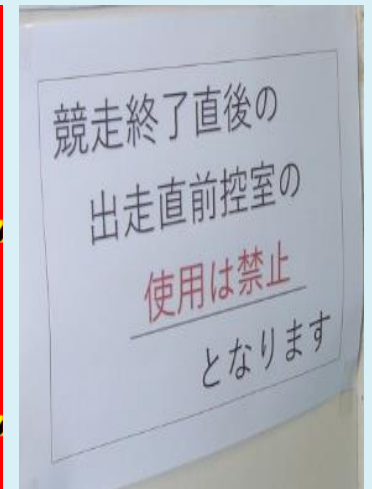
(25) レース後

- ・選手は、可能な限りマスクを着用し、息が整うまで一定の時間（ゴール後最低10分間）は、会話は禁止し他の選手と3m以上（パーティションの設置がある場合は、できる限り2m（最低1m）の距離を確保した上、ブレスコントロールエリア（※5）に留まること。
- ・レース終了選手の自転車の受取りは、飛沫感染防止の観点から禁止する。

（※5）ブレスコントロールエリアとは、オープンスペースを基本とした競輪場ごとで指定された場所をいう。



レース後の選手の自転車受け取り禁止



掲示物

(25) レース後

- ・選手は、可能な限りマスクを着用し、息が整うまで一定の時間（ゴール後最低10分間）は、会話は禁止し他の選手と3m以上（パーティションの設置がある場合は、できる限り2m（最低1m）の距離を確保した上、ブレスコントロールエリア（※5）に留まること。
- ・レース終了選手の自転車の受取りは、飛沫感染防止の観点から禁止する。

（※5）ブレスコントロールエリアとは、オープンスペースを基本とした競輪場ごとで指定された場所をいう。



ブレスコントロールエリア（屋外の例）



ブレスコントロールエリア（屋内の例）

(26) トイレ

- ・ガイドライン5. (4). ⑦を遵守する。

【ガイドライン5. (4). ⑦】

- ・トイレ内、あるいは便房内で感染者が長時間滞在した場合、入れ替わった人がエアロゾル感染する可能性があるため、換気を十分に行う。
- ・トイレや便房の扉、水道の蛇口、便器洗浄ボタン、大便器の場合は蓋、便座、紙巻器、ウォッシュレットなどの共有部分を介した接触感染の可能性があるため、利用者の手指衛生や共有部分の使用毎の消毒・清掃を確実に行う。
- ・共有部分をなるべく減らす、あるいは非接触にする工夫も有用である。
- ・便器は通常の清掃で問題ないが、不特定多数が使用する場所は定期的に清拭消毒を行う。
- ・手洗を徹底するものとする。また、共通のタオルは禁止し、ペーパータオルを設置するか、使用者に個人用タオルを持参してもらう。ハンドドライヤーについては、メンテナンスや清掃等の契約等を確認し、また、アルコール消毒その他適切な清掃方法により適切に清掃されているものについては、使用を可とする。
- ・液体石鹸や手指消毒用の消毒液を設置し、手洗いや手指消毒を行う。消毒液を設置する場合には、定期的な交換を行う。
- ・トイレの密集を回避するために、足元マークを設置する等、マスクの着用を前提に、人と人が触れ合わない程度の距離を空けた整列を促す。
- ・トイレの密集が回避できない場合はそのキャパシティに応じ、目安の人数上限等を下回る制限の実施を行う。

トイレ内
トイレ蓋閉め



手洗を徹底



(27) 直前控室

- ・選手点呼時はオープンスペースを使用する等、直前控室にできるだけ滞在しない運用とする。
- ・椅子の間に飛沫防止のためにアクリル板・透明ビニールシートなどのパーティションを設置するとともに、使用後は消毒を徹底する。また十分な換気（※4）を行う。
- ・選手点呼の際は、発声による点呼は行わず、指差し確認とする。
- ・指定練習時及びレース終了後の選手の入室を禁止する。

（※4）適切な空調設備を活用した常時換気又はこまめな換気（1時間に2回以上、かつ、1回に5分間以上）の徹底。乾燥により湿度が下がる場合は、湿度が40％以上になるよう適切な加湿を行う。寒冷な場面における換気を適切に行う上では、特に密が発生しやすい場所において、CO2モニター等で換気を確認（1000ppm以下）すること、温度を維持しながら適度な常時換気を行うこと及び加湿器等で適度な湿度を維持する工夫をすることが推奨される。



オープンスペースの使用
出走前控室 換気徹底・距離確保



出走前控室 飛沫防止シート設置
点呼は指差し確認



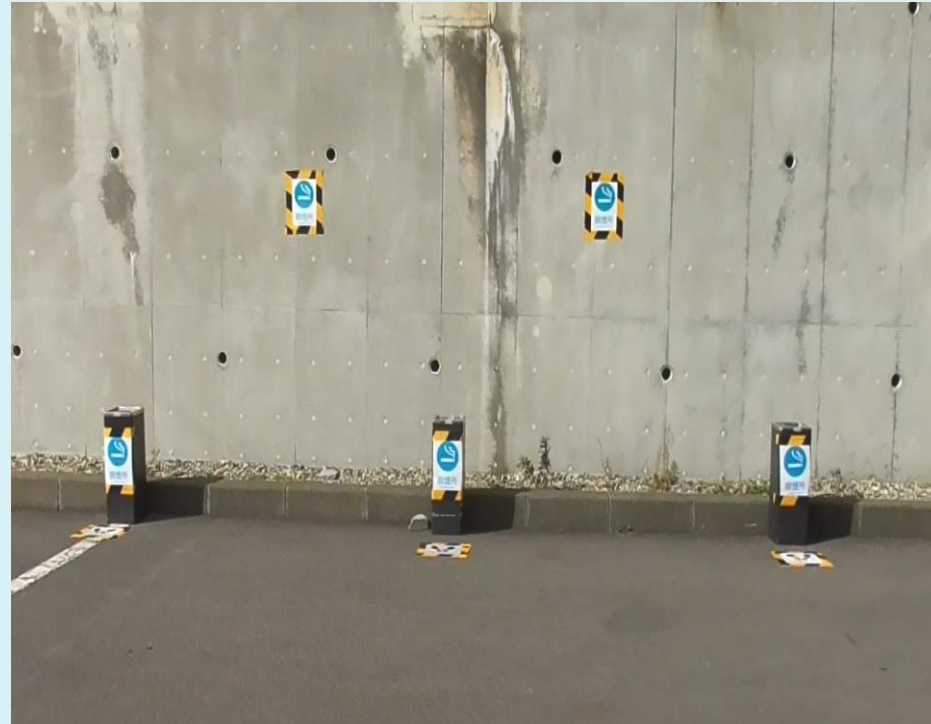
出走前控室備品
使い捨てペーパータオル

(28) 喫煙所

- ・屋内喫煙所は使用しない。ただし、屋外喫煙所を設ける場合は、他の選手とできる限り2m（最低1m）の距離を確保の上、会話は禁止とし、定員を設けることや対面とならないなどの工夫を行うこと。



屋内喫煙所の使用禁止



(屋外に喫煙所を設置)



(29) 随時

- ・従事者等は、時間毎（例：レース毎）に管理施設全般のアルコール消毒を実施する。消毒できないものは、触れた後の手洗いや手指消毒を徹底する。



消毒液設置（検車場）



工具等共用物の消毒励行

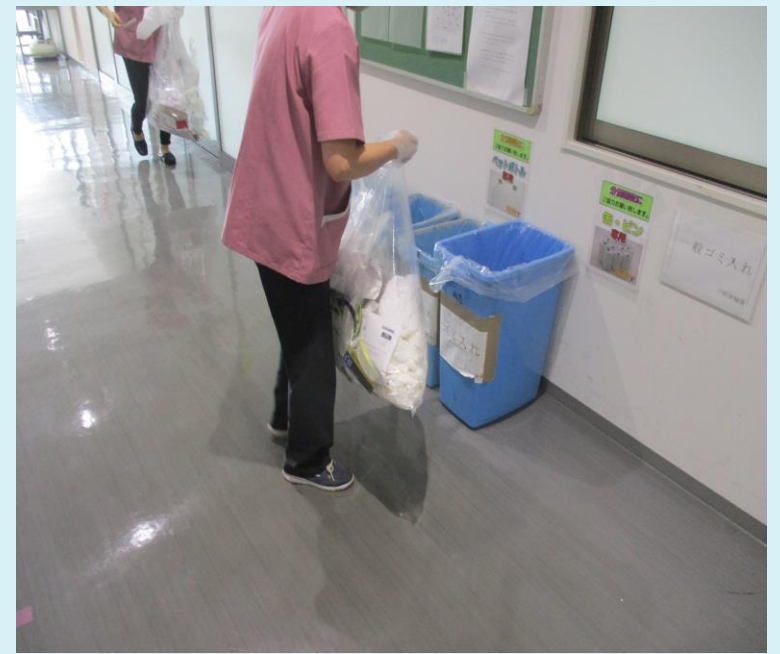


(29) 随時

- ・従事者等は、時間毎（例：レース毎）に管理施設全般のアルコール消毒を実施する。消毒できないものは、触れた後の手洗いや手指消毒を徹底する。
- ・宿舎居室を含む選手管理棟各所への消毒液設置個所を増設し、手指消毒の励行強化を徹底する。
- ・宿舎居室、選手控室のゴミは放置せず、鼻水や唾液などがついたゴミや使用済みマスクがある場合はビニール袋に密閉し、ゴミ箱へ速やかに格納する等、衛生管理に努める。また、飲みかけの飲料は放置しない。
- ・ゴミはこまめに回収し、ゴミの回収など清掃作業を行う従事者は、マスクや手袋を着用し、作業後に手洗いを徹底する。
- ・ユニフォームや衣服はこまめに洗濯する。



直前控室の消毒（レース毎）



こまめにゴミを回収（手袋使用）

(29) 随時

- ・素手でのハイタッチや握手等を控える。



ハイタッチ・握手禁止 掲示物

(29) 随時

※上記の他、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、「密閉」「密集」「密接」の3つの密を避ける（できる限り「ゼロ密」を目指す）よう積極的対策を実施すること。



選手代表との懇談会
(前検日) 距離確保



自転車宅配便受付
ビニールカーテン設置



自転車宅配便受付
距離確保



管理棟内売店
ビニールカーテン設置



エレベーター内
定員制限・向き指定



屋内喫煙所の使用禁止



感染疑いのある者の
隔離場所確保

(30) 一時隔離場所

- ・一時隔離場所を整備する場合は以下の条件を満たすこと。

項 目	内 容
居室	個室
ゾーニング	他の選手及び従事員等のエリアとは明確に区分された場所に設置し、ゾーニング（感染領域と非感染領域）を明確にする。
設備等	寝具、手洗い設備、冷暖房設備、トイレ ※トイレは居室に備わっていることが望ましいが、共用とする場合、運用面で十分配慮すること。
備品等	・体調を管理する備品 （体温計、パルスオキシメーター、解熱剤、飲料水など） ・滞在に必要な日用品 （リネン類、タオル類、ティッシュ、ゴミ袋など） ・二次感染を防止するための備品 （サージカルマスク、ガウン、ゴーグル（フェイスシールド）、手袋など）
食事	必要に応じ、食事（弁当）の配給
連絡体制	感染者との通信手段（トランシーバー・電話など）
清掃・消毒	使用後は、十分な換気を行った上で、通常の清掃に加え、消毒を行うこと。

対策要綱 10. 選手管理について

(31) 感染が確認された選手への対応

- ・開催中の抗原検査等により感染が確認された選手の帰郷の対応については、派遣医師又は医療機関等の指示を受け、施行者の責任により判断することとする。帰郷不可の選手については、療養期間が解除されるまで開催地近傍の宿泊療養施設や競輪場内の一時隔離場所に留め置くこととする。

対策要綱 10. 選手管理について

(32) 開催中の体調管理チェックと健康観察票（様式6）への記載

- ・選手は開催中、次のことを行う。
 - ・前検日の新型コロナウイルス感染拡大予防の健康観察票にある症状を訴え記入した選手は毎日の抗原検査の結果を記録し選手管理委員へ報告する。
 - ・選手は、毎日就寝前及び起床時に検温を実施し、結果を健康観察票へ記載し、選手管理委員へ報告する。
 - ・開催中に発熱（37.5℃以上又は平熱より1℃以上体温が高い場合）、咳、下痢、倦怠感その他体調の異常を訴える、若しくは服薬（風邪薬、頭痛薬等）の処方を希望する選手は速やかに選手管理委員にその旨を申告する。

対策要綱 10. 選手管理について

(33) 感染者となった選手への聞き取り内容の把握

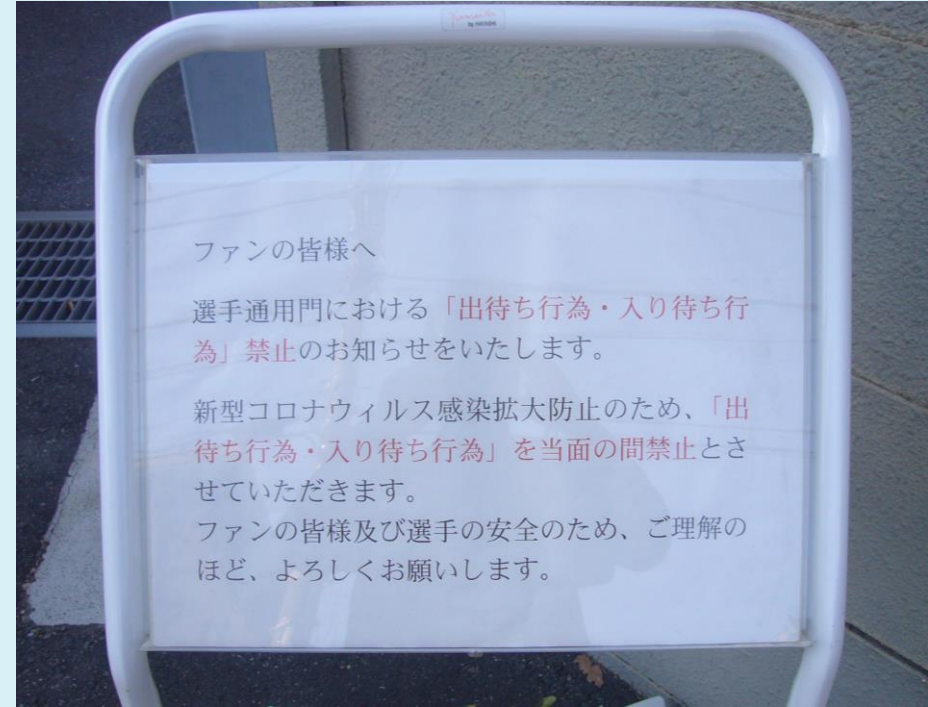
- ・選手管理委員は、医療機関等、派遣医師による感染者となった選手への聞き取り内容を確認し把握する。

その他

※上記の他、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、「密閉」「密集」「密接」の3つの密を避ける（できる限り「ゼロ密」を目指す）よう積極的対策を実施すること。



選手通用門



掲示物

お客様に対する「参加選手の出待ち行為・入り待ち行為の禁止」の告知

※上記の他、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、「密閉」「密集」「密接」の3つの密を避ける（できる限り「ゼロ密」を目指す）よう積極的対策を実施すること。

2021\$



その他

※上記の他、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、「密閉」「密集」「密接」の3密を避ける（できる限り「ゼロ密」を目指す）よう積極的対策を実施すること。

基本的な予防行動の徹底をしましょう

- 手洗い・手指消毒の徹底
※特に他人が触れたものに触れた後
- マスクの着用
- 咳エチケットの徹底
- 部屋の換気
- 栄養と睡眠を十分にとる
- 人混みや繁華街への
不要不急の外出を控える

新型コロナウイルス
感染予防ガイドブック

2021年11月版

競輪選手向け

新型コロナウイルス感染症対策本部
COVID-19 Response Headquarters of KEIRIN

(表面)

新型コロナウイルスについて

感染状況は？
新型コロナウイルスの感染者数死者数については、世界的に急激な増加が見られ、世界保健機関（WHO）は、2020年3月11日、この感染症の拡大がパンデミック（世界流行）と形容されるを発表しました。その後も感染は世界的な広がりを見せており、2021年11月22日現在、新型コロナウイルス感染症による日本国内で感染が確認された人は、1,721,893例となっています。

どうやって感染する？
せきやくしゃみ、会話等の時に排出されるウイルスを含む飛沫や、ウイルスを含む空気中の粒子（エアロゾル）を吸い込んだり、ウイルスが目や鼻、口に直接接触することで感染します。
※モノや手にウイルスが付いただけでは感染しません。顔まわりをマスクで守ったり、手指を清潔に保つことが有効です

症状のない人からも感染する？
新型コロナウイルスは、発症の2日前から発症後7～10日間程度が他の人に感染させる可能性があると考えられています。特に発症の直前・直後が感染させる可能性が高く、無症状の人からも感染する可能性があります。

症状は？
発熱、せき、倦怠感の症状や、味覚や嗅覚の異常が多くみられます。約4割は発症から1週間程度で治りますが、重症化すると高熱やせきの持続、呼吸困難等の肺炎の症状がみられるようになり、そのうち約5%は人工呼吸器等による治療が必要になります。

出典元：厚生労働省

1. 感染リスクを減らすための行動を心がけましょう！

競輪参加前のPCR検査の検体送付から競輪参加までの間は、不要不急の外出や飲食店等の利用の自粛にご協力ください。大人数での会食や飲み会、大声を出す行為（飲食店利用時や練習中等の大声での会話、カラオケやイベントなど）は自粛する。



2. 接触確認アプリ等を活用しよう！

「接触確認アプリ」は、新型コロナウイルス感染症の陽性者と接触した可能性がある場合に、通知を受け取ることができるサービスです。新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）ダウンロードページへのQRコード



3. 「新しい生活様式」を身につけましょう！

自分自身や周りの人、そして地域を感染拡大から守るため、「新しい生活様式」を実践しましょう。

- 日常生活
- ・毎日の体温・行動記録を健康管理手帳に記入。
 - ・ソーシャルディスタンスに気を付け「3密」の回避を。
 - ・マスク着用とこまめな手洗い、手指消毒。
 - ・キャッシュレス決済の活用。
 - ・公共交通機関は混雑時間帯を避ける。

競輪参加時・帰郷時

- ・移動する際は、極力単独で行動し、やむを得ず複数で同乗する場合はお互いに離れた座席を利用しましょう。

競輪参加中

- ・必ずマスクを着用しましょう。※不織布マスクが効果的です。
- ・管理エリア、選手宿舎（居室を含め）内は、ソーシャルディスタンスに気を付けましょう。
- ・こまめに窓をあけて換気をしましょう（1時間に2回以上、1回5分以上）。サーキュレーター等の活用も効果的です。
- ・食事はできるだけ単独もしくは少人数で、対面に座らないなどの工夫をし、15分以内でお願いします。

参加外練習時

- ・参加外の練習は、極力個人練習とし、競輪場等で複数人で練習する場合は、マスク着用の上、3密を避けるよう、細心の注意を払いましょう。
- ・選手同士のコミュニケーションはリモートツールも積極的に活用しましょう。

4. ワクチン接種を推奨

新型コロナウイルスワクチンには重症化を防いだり、発熱やせきなどの症状が出ることを（発症）を防ぐ効果があります。自分だけでなく周りの人を守るためにも積極的な接種を推奨します。新型コロナウイルスワクチンQ&Aはこちら



感染拡大を防止するため、各個人が「自分も感染しているかもしれない」という意識を持って行動することが大切です。

(内面)

「新型コロナウイルス感染予防ガイドブック（競輪選手向け）2021年11月版」（A4版・二つ折り）

- ・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、専門家の指導のもと、選手等に対して必要に応じてPCR検査、抗原検査等を行う。
- ・選手のワクチン接種を推奨するとともに、競走参加日決定、競走の欠場や追加といった調整について柔軟に対応することで、希望する選手が速やかにワクチン接種できる環境を整える。
- ・参集後の選手・出勤後の従事者において少しでも体調が悪い者が見出された場合や選手・従事者が発熱など軽度の体調不良を訴えた場合、その選手・従事者に対し、抗原定性検査キットを活用して検査を実施し、陽性の場合、その結果を都道府県が設置する健康フォローアップセンターに登録させる、もしくは医療機関を受診するよう伝える。
- ・抗原定性検査キットの購入に際しての具体的な手順、キットの購入申込先リスト等については、「職場における検査等の実施手順（第3版）について（令和4年10月19日事務連絡）」等を参照のこと。
- ・また、寮などで集団生活を行っている場合や、選手・従事者同士の距離が近いなど密になりやすい環境（労働集約的環境）、一般的な感染防止措置を行うことが困難な場合など、クラスター発生の危険性が高い職場環境では、定期的なPCR検査の活用も有用であるので、必要に応じて導入を検討すること。
- ・海外渡航歴を有する選手、従事者及び来場者の対応については、日本入国時の検疫措置（厚生労働省HP「水際対策」などを参照）に沿って判断する。

ガイドライン5. (2). ① ③に基づく対応

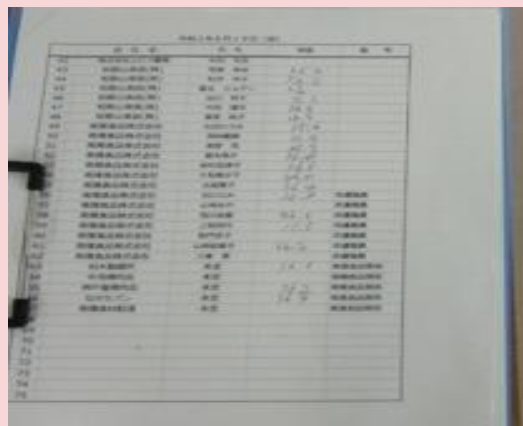
- ・従事者は、出勤前に、体温や新型コロナウイルス感染症への感染を疑われる症状の有無を確認する。少しでも体調の思わしくない者には各種休暇制度の取得を推奨する。また、勤務中に体調が悪くなった従事者は、必要に応じ直ちに帰宅させ、自宅待機とする。
- ・発熱などの症状により自宅で療養することとなった従事者は毎日、健康状態を確認した上で、症状がなくなり、出勤判断を行う際には、「職域のための新型コロナウイルス感染症対策ガイド（2022年4月1日：日本渡航医学会、日本産業衛生学会作成）」などを参考にする。症状に改善が見られない場合は、医師や保健所への相談を指示する。
- ・上記については、宿舎・競技施設内の請負労働者や派遣労働者についても請負事業者・派遣事業者を通じて同様の扱いとする。
- ・管理部門などを中心に、テレワーク（在宅やサテライトオフィスでの勤務）、時差出勤、ローテーション勤務（就労日や時間帯を複数に分けた勤務）、変形労働時間制、週休3日制など、様々な勤務形態の検討を通じ、通勤頻度を減らし、公共交通機関の混雑緩和を図る。
- ・自家用車など公共交通機関を使わずに通勤できる従事者には、道路事情や駐車場の整備状況を踏まえ、通勤災害の防止に留意しつつこれを承認することを検討する。
- ・競走に使用する自転車やオートバイの検査業務については、業務ごとに区域を整理（ゾーニング）し、従事者が必要以上に担当区域と他の区域の間を往来しないようにする。
- ・その他、オフィス等における感染予防対策については、日本経済団体連合会が公表している「オフィスにおける新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン（四訂：2022年6月17日）」等を適宜参照するものとする。

対策要綱 11. 従事者等について

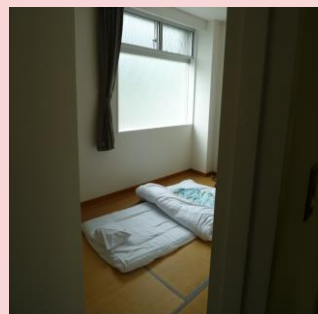
ガイドライン5. (2). ① ③に基づく対応



執務員等出勤時の検温
(マスク着用)



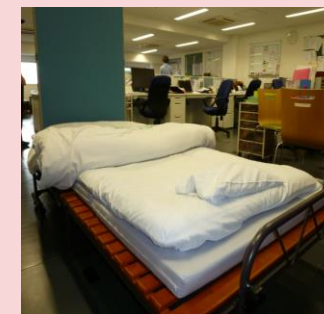
関係業者来場時検温
記録表 (例)



選手宿舎
執務員用居室
に1名



選手宿舎事務室
空スペースに
1名



競輪場内
別スペースに
1名

選手宿舎 (JKA執務員就寝時 密回避)



CO²モニターによる
換気の確認



選手管理室
飛沫防止シート



審判室
飛沫防止シート

前検日・開催中

- ・取材者の人数については最小限とするよう各社調整願います。取材をされない営業担当者等の来場はご遠慮ください。
- ・取材前に検温するなどして体調管理に努め、体調不良(発熱〔37.5℃以上又は平熱より1℃以上体温が高い場合〕・せき・鼻水・倦怠感・下痢・吐き気等)の方は来場をご遠慮ください。また、過去9日間に発熱(37.5℃以上又は平熱より1℃以上体温が高い場合)のある方についても来場はご遠慮ください。
- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある方は来場をご遠慮ください。
- ・開催に来場する初日の取材出発前にPCR検査（検体採取は5～4日前以降）もしくは抗原検査（居住地にて出発前）を行い「陰性」を確認した上で競輪場へ出発してください。
- ・「陰性」の結果証明は、陰性を示す文書等（抗原検査の場合は「検査実施日時が分かるもの（当日の新聞日付部分、時計の日付など、日付が証明できるもの）」と一緒に撮影した写真等）をもって当該開催での取材を許可することといたします。
- ・上記証明書等の確認は、下記健康状況確認表提出時に併せて確認します（初来訪時のみ）。
- ・各競輪場の報道受付(GⅢ以上)又は守衛所等(FⅠ・FⅡ・250)に体温計を用意いたします。前検日から最終日まで、入場時に担当者が立会って検温を実施いたしますのでご協力お願いいたします。
※早朝時の開門前などは自主検温にてお願いいたします。
- ・検温により37.5℃未満又は平熱より1℃未満であることが確認されましたら検温証明書を発行いたしますので、終日着用をお願いいたします。 ※毎日発行

前検日・開催中

- ・あわせて、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、健康状況確認表の記入にご協力お願いいたします。
- ・37.5℃以上の発熱がある方又は平熱より1℃以上体温が高い方は、競輪場から退出していただきますのでご了承ください。
- ・手洗いの徹底・うがい・咳エチケットの励行、消毒液による手指消毒をこまめに実施してください。
- ・選手取材にあたってはマスク着用を義務化いたします。※マスクは各自でご用意ください。
なお、マスクを着用していない方の選手管理エリアへの立入りは厳重にお断りいたします。
- ・取材時は、選手と一定の距離（2 m程度）あけてください。取材可能エリアにおいて、選手の立ち位置及び取材者の立ち位置を明示いたしますので、指定された場所での取材をお願いいたします。
- ・選手と接する時間が長時間に亘らないよう行ってください。また、取材目的以外の選手とのコミュニケーションは控えていただくようお願いいたします。
- ・囲み取材は2名以内（GP・GI・GII・GIII開催等については3名以内）で実施するようお願いいたします。取材者間で密着・密集しないようご注意ください。
- ・検車場など選手管理エリアへの入場人数を制限する場合もございますのでご協力お願いいたします。
- ・共同インタビューについては、屋外若しくはそれに準じた場所で行います。
- ・記者席内の換気をこまめに行ってください。 ※1時間に2回以上、かつ、1回5分間以上。
- ・選手もマスクを着用してインタビューを受けますのでご了承ください。
- ・選手胴上げについては、感染リスク防止の観点から行いません。
- ・開催中の取材全般につきましては、競技実施法人担当者の指示に従ってください。

※なお、本留意事項は新型コロナウイルス感染症の感染状況により、随時見直しを行ってまいります。

前検日・開催中



報道関係者受付 入門前検温



健康状況確認表の記入

別紙4

健康確認表
(競輪場入場申告)

30日間保存
2022年 月 日

・現在、発熱（37.5℃以上又は平熱より1℃以上体温が高い場合）
せき、鼻水、倦怠感、下痢、吐き気等の症状はありませんか？
☐ 症状はない ☐ 症状がある

・本日より過去9日間に発熱（37.5℃以上又は平熱より1℃以上体温が高い
場合）はありませんか？
☐ 発熱はない ☐ 発熱があった

・新型コロナウイルスの「感染者」または「濃厚接触者」となっていますか？
☐ なっていません ☐ なっている

・マスクは持参していますか？（取材時のマスク着用は義務化されております）
☐ 持参している ☐ 持参していない

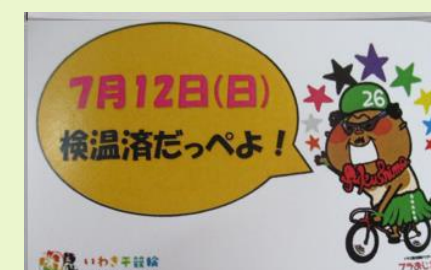
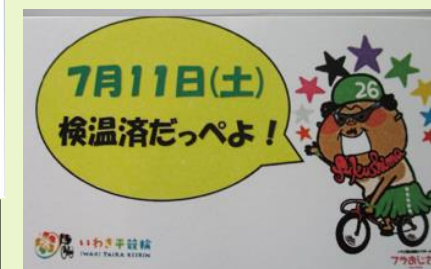
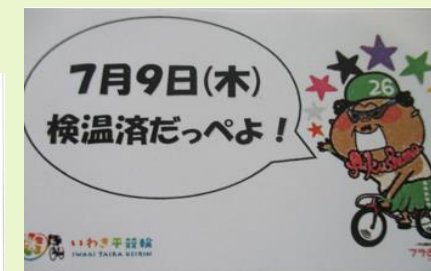
・入場する場所をすべて○で選んでください。
☐ 記者席 ☐ 取材エリア ☐ その他（ ）

氏名（署名）
社名
連絡先等

※本競輪場において、関係者・取材者等に新型コロナウイルス感染者が発生した場合に
連絡させていただきます。

検温実施結果	℃
--------	---

健康状況確認表



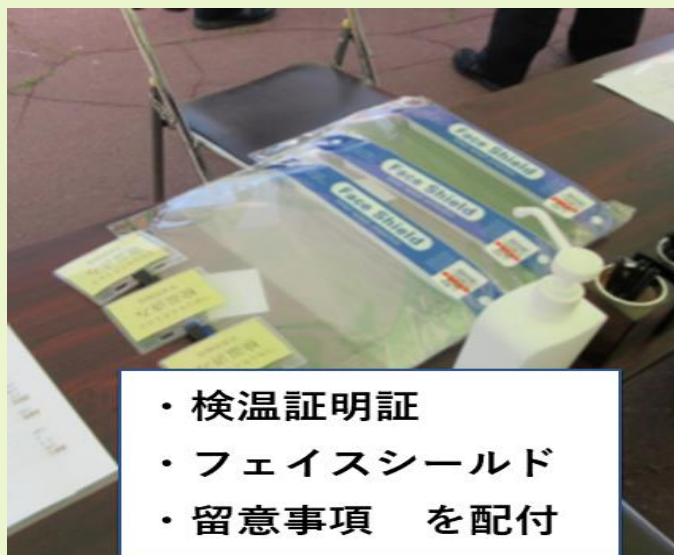
検温証明証（毎日発行）

当開催につきましては、
新型コロナウイルス感染症防止の為、取材記者の
人数を制限しております。

記者クラブの会員・準会員であっても、当開催の
取材者リストに名前がない方の入室は、ご遠慮いた
だきます様、お願い致します。

報道事務局

掲示物（人数制限）



- ・ 検温証明証
- ・ フェイスシールド
- ・ 留意事項 を配付

受付確認後配布物



鉛筆は使用前・後で区分
使用済は消毒



記者席 距離確保



記者席 マスク・消毒液配備



インタビュー室での取材
常時換気・人数制限



飛沫防止シート越しでの取材



【共同インタビュー】
屋外・距離確保・ビニールシート設置(選手座席前)

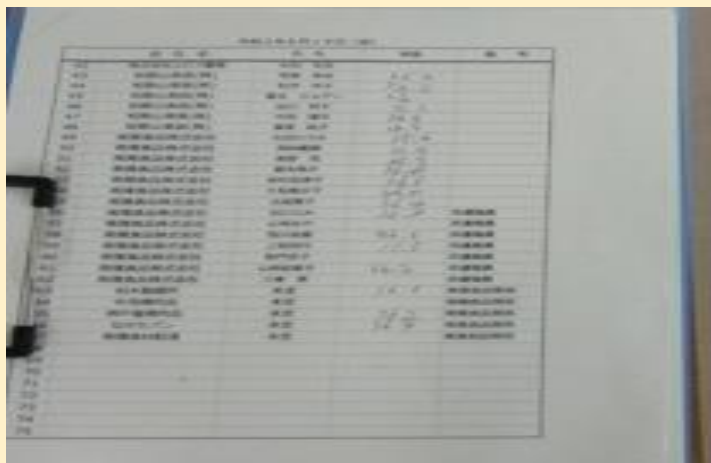


インタビュー終了毎にマイク・
椅子等、選手が使用した備品
を消毒



番組表の掲示 屋外

- ・立入りの人数については、最小限の人数で依頼する。
- ・体調管理に努め、体調不良(熱が 37.5度以上又は平熱より1℃以上高い・せき・鼻水・倦怠感・下痢・吐き気等)の場合は、立ち入りを認めない。
- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある場合は、立ち入りを認めない。
- ・立入り時には、担当者が立会って検温を実施する。
- ・立入り時には、マスクを必ず着用する。
- ・日頃からの石鹸による手洗いの徹底・手指のアルコールによる消毒・うがい・咳エチケットを励行する。
- ・人との間隔は、できる限り 2 mを目安に（最低 1 m）空けるよう努める。



関係業者来場時検温記録表
(例)



自転車宅配便受付
間隔確保・ビニールシート設置・マスク着用